



4



このおじさんたちは
何者なんだろう？

日本画*大研究展

どこをみる？ どうみる？



1



えっ!?
これ日本画なの？



2



この女性は
何を見つめているの？



5

現代アート?
じゃないよね？



6

鉛筆でもなく
筆でもなく
...指で描く？



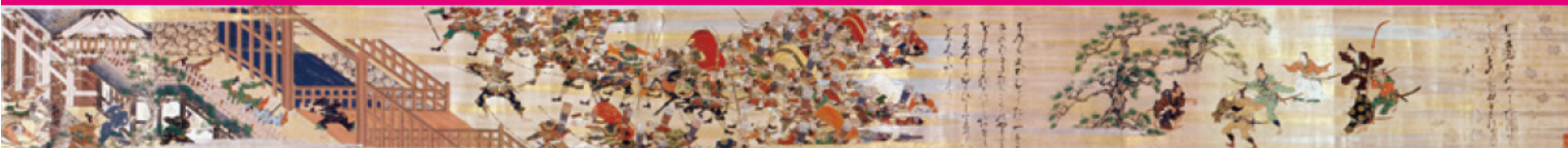
3



右? 左?
どっちから見る?



7



2018年9月11日(火) — 10月14日(日)

○休館日: 9月18日(火)、9月25日(火)、10月1日(月)、10月9日(火)
○開館時間: 午前9時30分—午後5時(入館は午後4時30分まで)
○主催: 三重県立美術館、朝日新聞社 ○助成: 公益財団法人岡田文化財団、公益財団法人三重県立美術館協力会
○特別協力: 愛知県立芸術大学文化財保存修復研究所
○技法監修: 阪野智啓(愛知県立芸術大学日本画専攻准教授/文化財保存修復研究所)

三重県立美術館
MIE PREFECTURAL ART MUSEUM

〒514-0007 三重県津市大谷町11 tel:059-227-2100 fax:059-223-0570
<http://www.bunka.pref.mie.lg.jp/art-museum/>

どこをみる？どうみる？

日本画*大研究展

曾我蕭白 → 描いた人の名前
りんなせいすびやうはく

《林和靖図屏風》 → 作品タイトル

一七六〇(宝暦十)年 → 描かれた年

紙本墨画淡彩 → 材質・技法

(紙に主に墨で描き、
淡く彩色を施した作品)

まずはじめに

【屏風】 間仕切りや装飾のために用いられていた調度。使わない時は折りたたみます。一對の場合は、一雙(そう・旧字体は雙)。向かって右側を右隻(うせき)、左側を左隻(させき)といいます。対にならないものは一隻、横長の大きな画面は迫力満点、大画面を活かした構図になっています。

【水墨画】 墨のみで描く絵画。中国で誕生した水墨画は、鎌倉時代に禅宗文化とともに日本に伝わり、室町時代に全盛期を迎えたと考えられています。墨の濃淡や筆の運びを駆使した幅の広い表現が見どころの一つです。

【落款】 絵にはサインが入っていることがあります。サインや印章で、描き手や制作年代がわかることがあります。この作品では、蕭白筆であることに加え、「宝暦辰春圖之」から制作年代が判明します。

伝統的な日本の絵画には、掛軸、巻子、屏風などさまざまな形があります。墨や岩絵具、胡粉などの材料や技法も多様で、鑑賞の手がかりとなるタイトルが難解であることもめずらしくありません。何が描かれているのか、どこを見ればいいのか見当がつかず、名画といわれる作品の前でツマナイ時間を過ごしたという経験はないでしょうか？

日本画はどう見ればもっと楽しめるのでしょうか。今回の展覧会では、三重県立美術館が所蔵する近世近代の日本絵画に、優れた日本画コレクションを有する滋賀県立近代美術館の所蔵品などを加えた約四十点を展示、下絵や画材、解説も用いて、日本画の特性やその魅力をご紹介します。日本画はむずかしいと敬遠している方も、日本画が大好きという方も、ぜひこの機会にこ来館ください。日本画に一步近づき、より深く味わうためのヒントが見つかるかもしれません。



曾我蕭白
《林和靖図屏風》
のうち左隻
1760(宝暦10)年
紙本墨画淡彩

テーマをさぐる

＊主役は鶴？それとも梅？
右隻に描かれている林和靖(りんなせい)が主役。中国北宋の文人で、生涯官に仕えず、鶴と梅を愛して自適の生活を送りました。鶴、梅とともに描かれていた、林和靖の可能性大。



右隻(部分)の林和靖

技法あれこれ

＊白色を塗らずに、白く見せる
描写の周辺に塗られた薄墨を外隈(そとくま)といいます。白く見せたいものの周辺に薄墨を塗ることで、白色を塗らずして白さを強調します。ここでは、夜空に浮かぶ月を白く見せています。

＊さまざまな筆致

梅の枝、鶴の顔、水草などが異なる筆致で描かれています。ぜひ会場で、線の表情を見比べてみてください。

つぎは展示室で

会期中のイベント

ギャラリー・トーク

本展担当学芸員が、展覧会や作品の魅力についてお話しします。
観覧券をお持ちの上、企画展示室にお集まりください。
◎日時：9月22日(土)、10月6日(土) 午後2時から
事前申込不要・聴講無料・約20分

日本画大研究の絵かきのコツター

三重県総合文化センター主催の小学生向けワークショップです。
◎日時：10月14日(日) 午前10時から11時30分頃
◎講師：つつみあけい氏(絵本作家)
◎定員あり、要事前申込。
＊詳しくは同センターのHPをご覧ください。

特集展示

土嶋敏男展

2018年9月27日(木)～12月2日(日)
[柳原義達記念館B室]

次回企画展

川端康成と横光利一展

2018年10月27日(土)～12月16日(日)

【観覧料】

- ◎一般 600(500)円 ◎学生(大学・各種専門学校等)500(400)円
- ◎高校生以下無料 ()内は20名以上の団体割引料金
- ＊この料金で、常設展示室、柳原義達記念館もご覧いただけます。
- ＊学生の方は生徒手帳、学生証等をご提示ください。
- ＊身体障害者手帳等をお持ちの方および付き添いの方1名は観覧無料。
- ＊県内学校(幼・小・中・高・特支)等が来館する場合、引率者も観覧無料(要申請)。
- ＊毎月第3日曜の「家庭の日」は団体割引料金でご覧いただけます。



【交通案内】

津駅(近鉄・JR)西口より徒歩約10分。
または、津駅西口1番のりばより三重交通バス「西団地循環」・「津西ハイタウン行き(むつみ・つつじ経由)」・「夢が丘団地行き(総合文化センター前経由)」・「総合文化センター行き」のいずれかに乗車約2分、「美術館前」下車徒歩約1分。
駐車場もご用意していますが、できる限り公共交通機関をご利用ください。

三重県立美術館 MIE PREFECTURAL ART MUSEUM

〒514-0007 三重県津市大谷町11
tel:059-227-2100
fax:059-223-0570
http://www.bunka.pref.mie.lg.jp/art-museum/

Follow us on Twitter @mie_kenbi

